

シニア産業カウンセラー試験 「受験資格移行」に関する取扱いについて

2013 年 5 月

一般社団法人 日本産業カウンセラー協会

協会では、より高い専門性と実践力のあるシニア産業カウンセラーの輩出を目的として、2014 年度より「シニア産業カウンセラー育成講座」（以下「新シニア育成講座」）を開講し、新しい「シニア産業カウンセラー試験」（以下「新シニア試験」）を 2017 年度から実施することとしています。これに伴い、現行のシニアコース講座（以下「現シニア講座」）は 2016 年度で終了、現行のシニア産業カウンセラー試験（以下「現シニア試験」）は 2018 年度で終了することとなります。

上記に関連して、「現シニア講座」受講者等の移行の取扱い方針が、理事会（5 月 11 日開催）で確定しましたのでお知らせします。

なお、今回の移行に伴う資格名称の変更はありません。「新シニア試験」に合格された場合に付与される資格の呼称は、現行と同じ「シニア産業カウンセラー」となります。

移行スケジュール

年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
現シニア講座	○	○	○	○			
現シニア試験	○	○	○	○	○	○	
新シニア育成講座		□ (※)	□ (※)	□ (※)	□	□	□
新シニア試験					□	□	□

(※) 部分開講

I. 現シニア講座と新シニア育成講座について

	現シニア講座	新シニア育成講座 (科目一覧は 4 ページ参照)
科目編成	【共通科目】 17 科目 30 単位 90 時間 【メンタルヘルス専攻】* 11 科目 29 単位 87 時間 【キャリアカウンセリング専攻】* 15 科目 29 単位 87 時間 *いずれかの専攻を選択 合計履修単位 59 単位 合計履修時間 177 時間 (1 単位 : 3 時間)	【領域Ⅰ】 信頼され影響力をもつ能力 13 科目 23 単位 138 時間 【領域Ⅱ】 人間関係・組織開発を援助する能力 6 科目 7 単位 42 時間 【領域Ⅲ】 組織に働きかける能力 2 科目 6 単位 36 時間 合計履修単位 36 単位 合計履修時間 216 時間 (1 単位 : 6 時間) 単位数は受験資格に必要な単位数
講座の特徴	基本的に講義中心	事例研究、演習等が中心
受験資格	すべての講座を受講修了すること	科目ごとに履修認定を行う 必要単位数を満たすこと

Ⅱ. 受験資格移行の取扱いに関する基本的な考え方

- (1) シニア産業カウンセラー試験の受験資格は「産業カウンセラー資格取得後、3年が経過している者であって講座の修了が必要」であることから、直近の産業カウンセラー資格取得者への配慮として、現シニア試験は2018年度まで実施する（一部の受験資格者を除く）こととしました。
- (2) 新シニア育成講座の内容は現シニア講座の内容と異なることから、「講座と試験の連動性」を基本に、現行の試験制度と新しい試験制度との間に一定の区切りを設けることとしました。そこで、受講講座と試験の関係について 2012年度末（2013年3月末時点）を基準にして取扱いを区分することとします。
- (3) 上記のように、現行の試験制度と新しい試験制度の間に一定の区切りをしますが、新シニア育成講座の趣旨をふまえつつ、会員の負担を軽減するため、**特例措置**を設けることとします。
特例措置：現シニア試験において資格取得ができなかった場合、新シニア育成講座を 42時間以上受講することにより、新シニア試験を受験できるものとします。
42時間以上の受講としたのは、新シニア育成講座（216時間）と現シニア講座（177時間）の履修時間差が39時間であることと、新シニア育成講座の1単位が6時間であることから、6時間の倍数である42時間に決定したものです。
- (4) 2013年度以降（2013年4月以降）の産業カウンセラー資格取得者は、すべて「新シニア育成講座」を受講していただくこととなります。

Ⅲ. 具体的な移行案

2012年度末（2013年3月末時点）を基準として以下のように区分します。

- 1) 2013年3月末時点で、現シニア試験の受験資格を有する者
- 2) 2013年3月末時点で、現シニア講座の受講途中にある者

これに該当する方は、2014年3月末時点で①、②のいずれかを選択していただきます。

パターン① 現シニア講座 → 現シニア試験

パターン② 新シニア育成講座受講 → 新シニア試験受験

- 1) 2013年3月末時点で、現シニア試験の受験資格を有する者

⇒ 現シニア試験の受験有効年度を2016年度までとします。

2016年度までにシニア資格の取得がない場合、特例措置を適用します。

新シニア育成講座を42時間以上受講することにより、2017年度からの新シニア試験の受験が可能です。

年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
シニア試験 ○：現シニア試験 □：新シニア試験	○	○	○	○	□	□	□

2) 2013 年 3 月末時点で、現シニア講座の受講途中にある者

パターン① 現シニア講座 → 現シニア試験

⇒ 現シニア試験を 2018 年度まで受験可能です。

2018 年度までにシニア資格の取得がない場合、特例措置を適用します。

新シニア講座を 42 時間以上受講することにより、2019 年度からの新シニア試験の受験が可能です。

年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
現シニア講座	○	○	○	○			
シニア試験 ○:現シニア試験 □:新シニア試験	○	○	○	○	○	○	□

パターン② 新シニア育成講座 → 新シニア試験

⇒ 新シニア講座の受講により受験資格を得て、2017 年度からの新シニア試験を受験していただきます。

2013 年度末（2014 年 3 月末）までに履修した「現シニア講座の時間数」は、新シニア育成講座の履修修了時間数として換算します。したがって、新シニア育成講座の修了必要時間数（216 時間）に不足する時間数に相当する科目（自主選択）の履修が必要となります。

年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
講座 ○:現シニア講座 □:新シニア育成講座	○	□	□	□	□	□	□
新シニア試験					□	□	□

現シニア講座・新シニア育成講座に関するお知らせは、随時、会報誌及び協会HPに掲載いたします。

試験・受験資格に関するお問い合わせ先

試験部 TEL : 03-3438-4568

IV. 新シニア育成講座 科目一覧

科目	科目タイトル(仮称)	単位	受験単位
領域Ⅰ 信頼され影響力を持つ能力(カウンセリング力)		25	23
1	認知行動療法	3	3
2	主張(アサーション)訓練	1	1
3	交流分析	1	1
4	ゲシュタルト療法	1	
5	ソリューション・フォーカスト・アプローチ	1	
6	精神療法と薬物療法	1	1
7	パーソナリティの病理	1	1
8	危機介入等の実践的理解	1	1
9	キャリア開発領域の事例検討および実習	3	3
10	心理アセスメントの実践的理解(心理テスト法)	2	2
11	逐語記録・事例報告の作成と検討	6	6
12	セルフキャリア開発	1	1
13	自己理解の深度化<BEG 体験>	3	3
領域Ⅱ 人間関係・組織開発を援助する能力		7	7
14	コミュニティ・アプローチ	1	1
15	多文化と価値観の多様性へのアプローチ	1	1
16	グループダイナミックスの実践的理解	1	1
17	人間関係形成の実践的理解	1	1
18	ファシリテーションとグループ・ワークの実践的理解	2	2
19	教育研修指導法の実践的理解	1	1
領域Ⅲ 組織に働きかける能力		6	6
20	メンタルヘルス体制の実践的理解	4	4
21	働きやすい職場づくりの実践的理解	2	2
合計		38	36

3「交流分析」4「ゲシュタルト療法」5「ソリューション・フォーカスト・アプローチ」は選択科目